

2003年11月7日

2003年9月中間期 決算説明会

2003年9月中間期業績の状況
キョーリンMIC-'05計画の修正

杏林製薬株式会社

2003年9月中間期 決算概観（連結）

売上面では、海外売上高がBMS社のテクイン過剰在庫の解消、アラガン社の点眼液新発売により前年プラスの実績となりましたが、国内の医療用医薬品売上高が、ガチフロ錠の(自社販売分および大日本製薬向け)売上減少により、連結売上高308億円(前年比3.3%減)となりました。

利益面では、売上の減少に伴い連結経常利益33億円(前年比32.0%減)と減益となりましたが、連結当中間期純利益は、厚生年金基金代行部分の返上に伴う特別利益44億円の計上等により46億円(前年比198.4%増)と大幅な増益となりました。

通期(2004年3月期)では、連結売上高653億円(前年比4.8%減)、連結経常利益91億円(前年比28.9%減)、連結当期純利益80億円(前年比94.2%増)を見込んでおります。

	01年9月期 中間実績	02年9月期 中間実績	03年9月期 中間実績	前年比	連単倍率	04年3月期 通期見込み	前年比
売上高	29,293	31,878	30,831	3.3%	1.02	65,300	4.8%
営業利益	3,831	4,806	3,387	29.5%	1.00	8,900	28.0%
経常利益	3,946	4,904	3,336	32.0%	1.01	9,100	28.9%
当期利益	871	1,555	4,643	198.4%	1.01	8,000	94.1%
EPS	15.14円	18.05円	53.93円	198.8%	1.01	92.93円	96.8%
株主資本	100,107	103,228	109,504	6.1%	1.01		
総資産	127,483	135,017	138,980	2.9%	1.01		

2003年9月中間期 中間業績の状況（単体）

	02年9月期 (中間実績)	03年9月期 (中間実績)
売上高	31,164	30,137
国内医療用	26,212	24,670
海外医療用	3,191	3,672
その他	1,759	1,794
営業利益	4,739	3,383
経常利益	4,626	3,291
当期利益	1,319	4,614

(単位：百万円)

	(前年差異)	(見通し差異)
売上高	30,137百万円 (10億円)	(2億円)
国内医療用	24,670百万円 (15億円)	
=業績プラス要因=		
前期実績	当期実績	
・ムコダイン	74	78 (+4)
・キプレス	25	43 (+18)
・ペンタサ	26	30 (+4)
=業績マイナス要因=		
・ガチフロ	19	6 (-13)
*杏林売上のみ		
・その他	42	21 (-21)
[その他のマイナス要因]		
・大日本製薬のガチフロ錠に関する一時金及び出荷の減少		
海外医療用	3,672百万円 (+4億円)	
=業績プラス要因=		
・ガチフロ	19	30 (+11)
BMS社の過剰在庫問題解消、アラガン社の点眼液米国上市(4月)		
その他	1,794百万円 (±0億円)	
・ミルトン	16	14 (-2)
営業利益	3,383百万円 (13億円)	(+7億円)
営業利益率は11.3%と3.9ポイント低下		*研究費の期ずれ
・原価率…前年比+2.9ポイント(29.9% 32.8%)		
*ガチフロ錠の売上減少		
・販管費率…前年比+1.0ポイント(54.9% 55.9%)		
*販管費約2億円減：研究開発費4億円増加、研究開発費を除く 販管費は7億円減少		
当期利益	4,614百万円 (+32億円)	(+32億円)
・退職給付債務の償却(約15億円)が前年度で終了		
・厚生年金基金代行返上に伴う、特別利益の計上(4.4億円)		
配当	8円00銭	

2004年3月期 業績の見込み（単体）

	03年3月期 (実績)	04年3月期 (見込み)
売上高	67,293	63,900
国内医療用	54,656	53,300
海外医療用	9,024	6,500
その他	3,612	4,100
営業利益	12,364	9,000
経常利益	12,241	8,900
当期利益	3,633	7,800

(単位：百万円)

* 1：野木工場の移転・閉鎖に伴い当期割増退職金の発生が見込まれますが、金額が不明なため連結・単体とも当業績見通しには取り込んでおりません。金額が確定次第速やかに発表する予定です

<当期のポイント>

売上高	63,900百万円	(前年比) (33億円)	当初見込み(当初見込みとの差異) (673億円)(34億円)
国内医療用	53,300百万円	(13億円)	(20億円)
=業績プラス要因=			
・ムコダイン	前期実績 171	当期見込み 177(+6)	(8) ムコダインDS拡大遅れ
・キプレス	64	94(+30)	
・ペンタサ	53	59(+6)	(7) 患者1人当り投与量拡大策の遅れ(剤形小型化, 確実な効果)
=マイナス要因=			
・ガチフロ	47	30(17)	
・その他	65	40(25)	
*大日本製薬向けガチフロ錠出荷が見込みを下回る			
海外医療用	6,500百万円	(25億円)	(13億円)
=プラス要因=			
・ガチフロ	51	55(+4)	(10) *BMS社の現地売り見込みは下回る(\$220MM \$200MM)
*BMS社の過剰在庫問題解消、アラガン社の点眼剤米国上市(4月)により実績は前年を上回る			
=マイナス要因=			
・その他	24	2(22)	
*契約一時金収入の減少(メルク、アラガンなど)			
その他	4,100百万円	(+4億円)	(1億円)
営業利益	9,000百万円	(33億円)	(20億円)
営業利益率は14.1%と4.2ポイント低下(18.3% 14.1%)			
・原価率...前年比上昇を見込む(上期並)			
*契約一時金収入減少、ガチフロ売上減少、プロダクトミクスの変化			
・販管費率...前年比若干の上昇を見込む			
*研究開発費の増加(7084億円)を見込むが販売費、人件費等の大幅な低減を図ることで、販管費(額)は前年を下回る見通し			
当期利益	7,800百万円	(+41億円)	(+19億円)
・退職給付債務の償却(95億円:3年間)が、前年度で終了			
・厚生年金基金代行返上に伴う、特別利益の計上(44億円)			
* 1			
配当	16円00銭の予定		

中期経営計画：キョーリンMIC-'05計画の数値目標修正

杏林の目指す企業像

「FM領域において国際的な創薬力を有する新薬開発型企业」

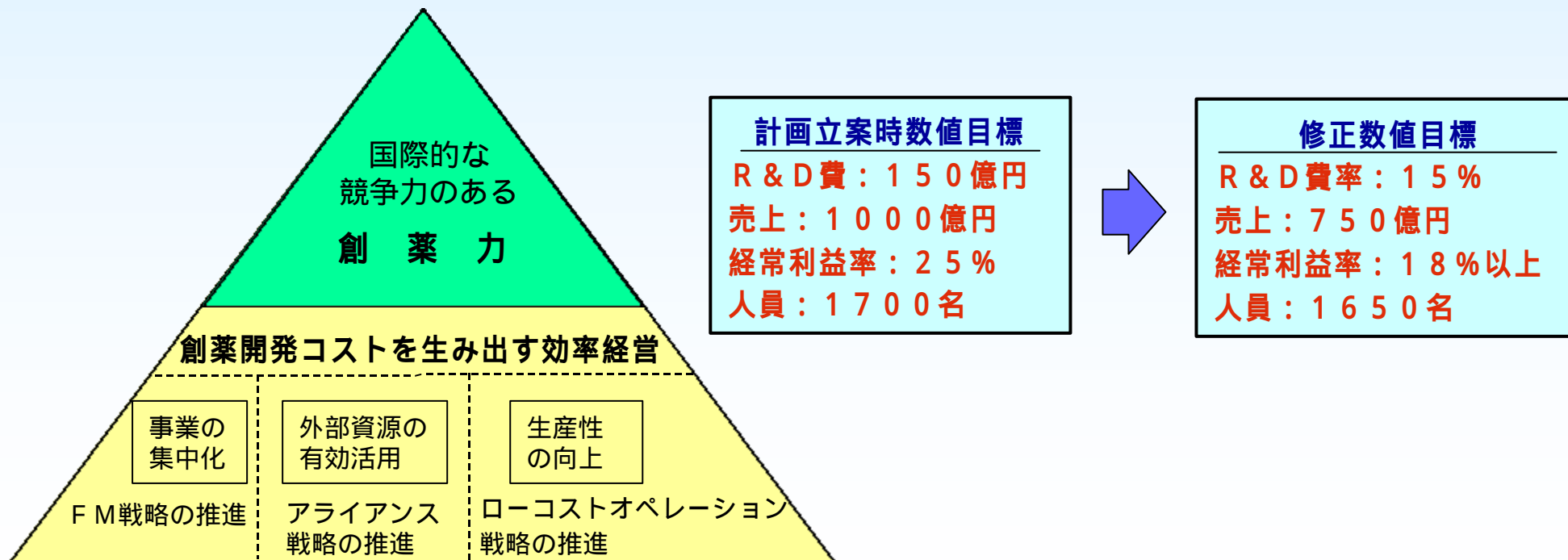
FM：フランチャイズマネジメントの略 当社の得意領域

キョーリンMIC-'05計画 基本方針

“国際的な競争力を持った創薬力の強化のため集中的な資源投下を行う”

基本戦略1. 「国際的な競争力のある創薬モデルの確立」

基本戦略2. 「創薬開発コストを生み出す効率経営」



計画修正の背景と'03～'05年度の位置付け

2001年 キョーリンMIC-'05計画立案時の背景

国際的戦略商品ガチフロキサシン（経口抗菌剤）の大いなる成長を期待



2002～2003年 国内外におけるガチフロキサシン血糖値異常の副作用発現

海外添付文書でのWARNING掲載、国内での緊急安全性情報発出により
ガチフロキサシンの売上目標数値の下方修正を検討



修正検討に当たっての2003～2005年度の位置付け

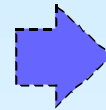
ガチフロの売上高目標の修正が余儀なくされた一方で、'06年度以降は新製品の
国内外での上市による業績拡大が期待される

'03～'05年度を業績拡大期に向けた基盤形成期間と位置付け、「キョーリン
MIC-'05計画」の現在の基本方針にもとづき計画を修正する

キョーリンM I C - ' 0 5 計画 修正の基本骨子

◆ キョーリンM I C - ' 0 5 計画 数値目標の修正

M I C - ' 0 5 計画目標値 (立案時)	
R & D費	: 150 億円
売上高	: 1000 億円
経常利益率	: 25 %
人 員	: 1700 名



M I C - ' 0 5 計画目標値 (修正値)	
R & D費率	: 15 %
売上高	: 750 億円
経常利益率	: 18 % 以上
人 員	: 1650 名

◆ 基本骨子

1 . 営業展開の変革

国内：ガチフロ戦略から より一層のF C戦略の強化 / 推進へ

海外：ガチフロ点眼液へのライセンサーとしての取組み強化と海外基盤の構築検討

2 . 研究開発への積極的な投資

・ 国際的新薬開発企業としてR & D費率15%を目処に投資を拡大

3 . R & D費率を15%へ拡大しつつ経常利益率の水準を確保

新生産体制の構築によるコスト構造の改革

人員計画 / 人件費計画見直しによるR & D費を除いた販管費率の低減

基本骨子1. 営業展開の変革

国内：ガチフロ戦略からより一層のF C戦略の強化 / 推進へ

1. F C戦略商品によるF C領域ユーザーへの営業資源のより一層の集中化

(呼吸器内科・耳鼻科・泌尿器科)

1) 総コール数の向上

MRの増員 / 維持

(医療用医薬品 MRのみ)

01年度	02年度	03年度	➔	05年度
590人	600人	630人		630名

コア訪問先への集中化による訪問およびコール効率の向上

コア訪問先 [内科 (呼吸器)、耳鼻科、泌尿器科により集中]

MR増員

集中化

総コール数を10%アップ

2) F C戦略商品に対する取り組み強化

F C戦略商品：ガチフロ、キプレス、ムコダイン、バイナス、アレロックなど

F C戦略商品にかけるコールウェイト：65% ➔ 85%

キョーリンMIC-'05計画の修正

基本骨子1. 営業展開の変革

国内：ガチフロ戦略からより一層のFC戦略の強化 / 推進へ

2. FC戦略商品（ガチフロ、キプレス、ムコダイン等）への具体的取組み

ガチフロ錠

呼吸器感染症を中心に適正使用していただける疾患からのリ・スタート
最大の特長である呼吸器感染症の起炎菌および耐性菌に対する抗菌力を訴求する

重点市場：約500億円

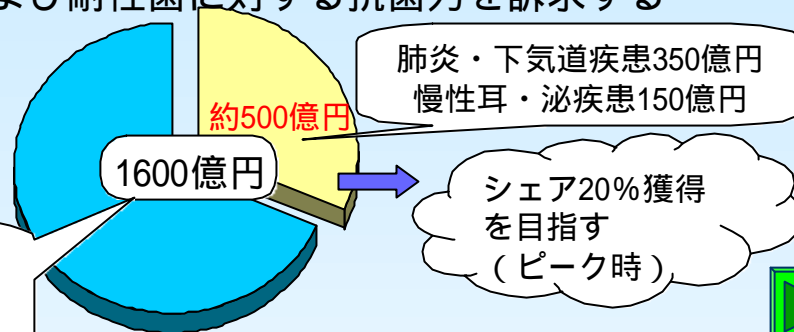
- ・肺炎/下気道疾患約350億円
- ・慢性耳/泌疾患約150億円

修正目標

売上高100～150億円
(杏林・大日本合計)

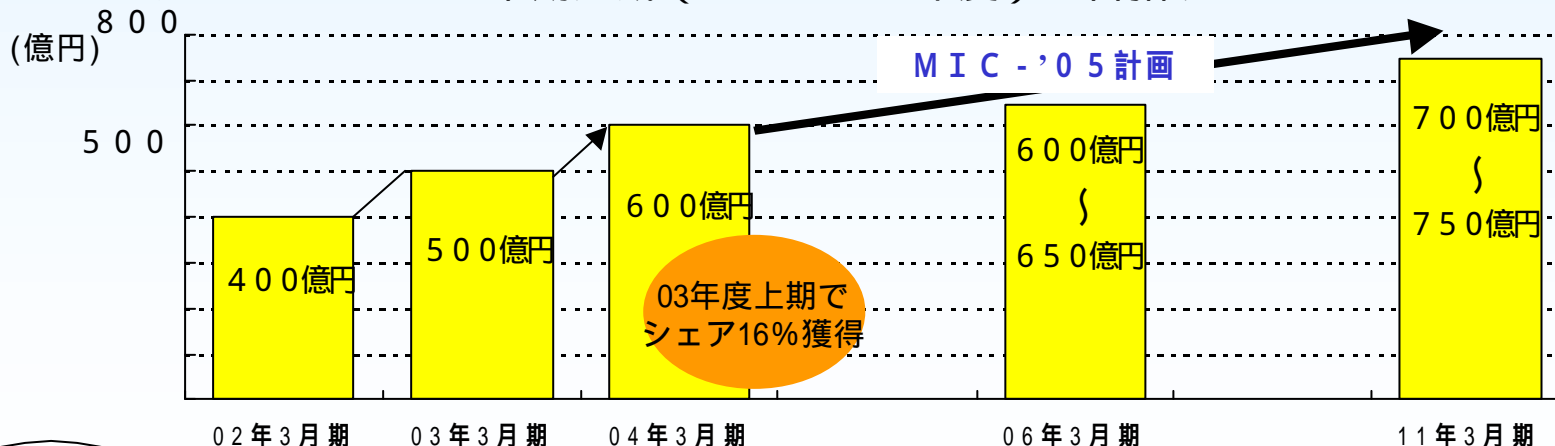
成人用経口抗菌剤市場：1600億円

- ・糖尿病患者を除く
- ・65歳以上の高齢者での用量調節による減少



キプレス

- ・キプレスターゲットドクターへの行動集中化とコール数の拡大
- ・ピークシェア25%の早期達成(07-05年度)を目指す



シェア実績

時期	実績	見込み
02年3月期	(実績) 8% 3.1億円	(実績) 13% 6.4億円
04年3月期	(実績) 16% 9.4億円	(見込み) 16% 9.4億円

05年度達成へ

07年度
シェア：25%

出典：杏林製薬
市場：薬価換算
売上：販売額

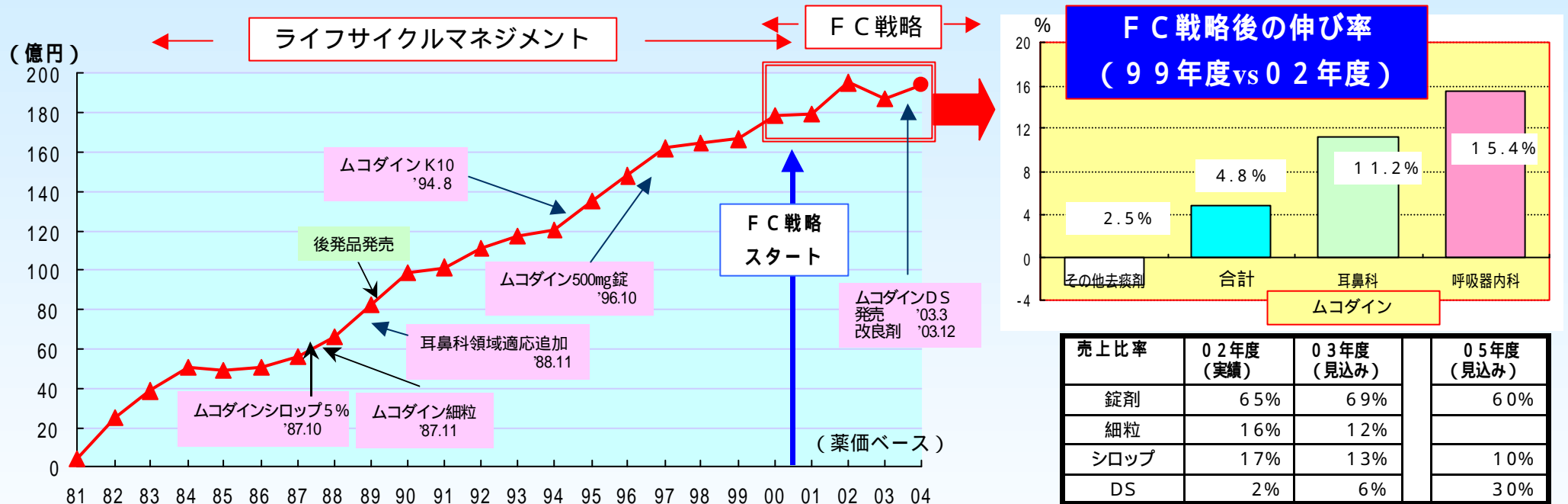
キョーリンMIC-'05計画の修正

基本骨子1. 営業展開の変革

国内：ガチフロ戦略からより一層のFC戦略の強化 / 推進へ

ムコダイン 新剤形DS改良剤への積極切替えにより、更なる売上増を目指す

- ライフサイクルマネジメント戦略（剤形追加・効能追加等）とFC戦略のコラボレーション -



売上比率	02年度 (実績)	03年度 (見込み)	05年度 (見込み)
錠剤	65%	69%	60%
細粒	16%	12%	
シロップ	17%	13%	10%
DS	2%	6%	30%

抗アレルギー剤（バイナス、アレロック）の新規参入

FC領域（呼吸器内科、耳鼻科）での処方拡大と他剤コールアップのシナジー効果を目指す

バイナス
アレルギー性
鼻炎治療剤

2003年1月よりコ・マーケティング開始
バイエル 2002年売上：19億円（薬価）

アレロック
アレルギー
疾患治療剤

2003年10月よりコ・プロモーション開始
協和発酵 2002年度売上：118億円

呼吸器内科・耳鼻科領域の強化

基本骨子1 . 営業展開の変革

国内：ガチフロ戦略からより一層のF C戦略の強化 / 推進へ

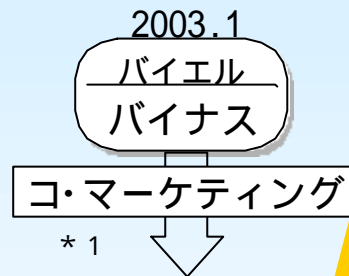
3 . アライアンス戦略によるF C戦略の更なる強化

アライアンス戦略により、

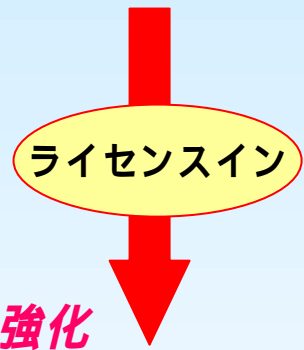
F C領域で処方頻度の高い製品の導入

F C領域外で主に処方される製品の導出推進

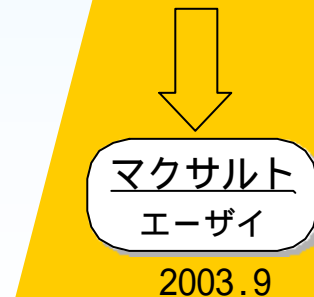
2003年度の取組み



ライセンスインの強化



F C戦略の強化 / 推進：F C領域で主に処方される製品の強化



販売委託 / 共同販売の推進



*1 コ・マーケティング：共同販売

*2 コ・プロモーション：共同販促

基本骨子1 . 営業展開の変革

海外：ガチフロ点眼液への取組み強化と海外基盤の構築検討

1 . 海外ガチフロキサシンの状況

B M S 社：テクイン の状況

単位：\$ MM	2000年 実績	2001年 実績	2002年 実績	2003年 1~2Q実績	2003年 見込み	2005年 見込み
I M S データ (シェア)	119 (7.7%)	258 (9.4%)	248 (9.0%)	111 (7.1%)	220 200 *下方修正	220~230
抗菌剤全市場 (前同比)	9300 +6.9%	10400 +11.8%	10900 +4.8%	+12.0%		

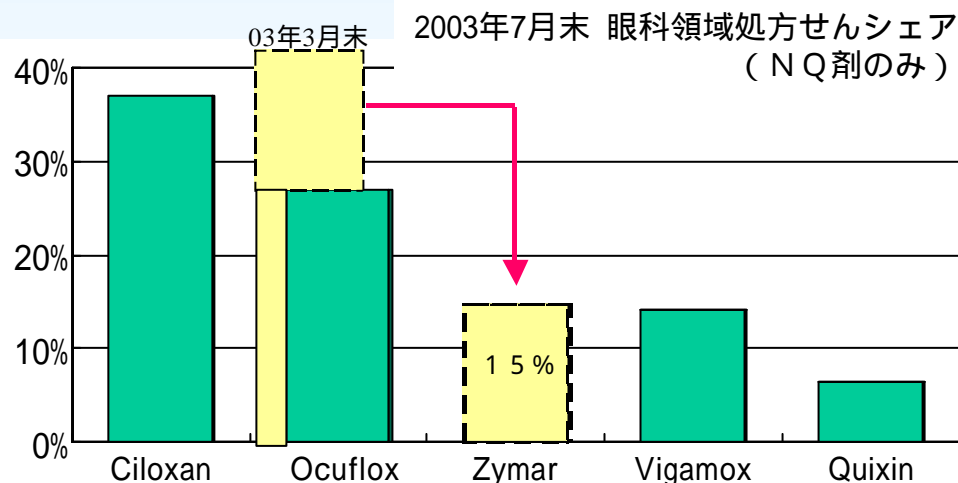
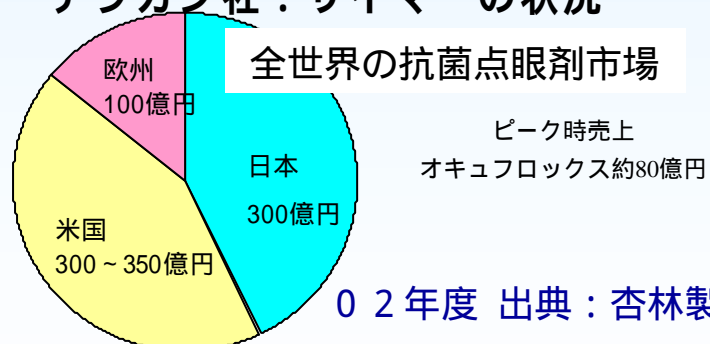
2005年(見込み)の背景

- 1) 添付文書改訂やコ・プロモーション解消による影響は03年9月にほぼ収束(I M S : 新規処方箋)
- 2) 小児適応症を2003年中に申請予定
- 3) 呼吸器感染症だけでなくU T I、皮膚感染症への処方拡大



\$ 220 ~ 230 MM/年へ

アラガン社：ザイマーの状況



現状と今後の展開

- ・ 上市後順調にシェア獲得が進んでいる
- ・ 特許切れ(製剤特許；2003年11月)に近いオキュフロックスからの急速な処方切り替えが推測される
初年度；\$ 10 MM ピーク時；シェア20%以上(抗菌点眼液市場)の早期達成を目指す

基本骨子 1 . 営業展開の変革

海外 : ガチフロ点眼液への取組み強化と海外拠点の構築検討

2 . 海外基盤の新たな展開 : K R P - 2 9 7 の新展開の検討

当社が留保する K R P - 2 9 7 の海外の権利

- 北米におけるコ・プロモーション権
- 欧州におけるコ・マーケティング権

K R P - 2 9 7 の開発ステージ

- 米国 : P h 2 0 0 2 年 4 Q ~ (メルク社)
- 日本 : P h 2 0 0 2 年 3 Q ~ (P h a 終了)

K R P - 2 9 7 の市場性			
	2000年	2001年	2002年
全世界	1,730	2,400	3,000
米国	1,600	2,200	2,600
日本	60	80	100
欧州他	70	120	300

単位 : 億円 出典 : 杏林製薬



< 4 つのシナリオ >

- 1) 自前で販売網を構築
- 2) 海外製薬企業とのアライアンス (買収・資本提携など)
- 3) 米国に販売網を持つ日本企業との提携
- 4) 権利を行使せず

→ K R P - 2 9 7 の
コ・プロモーションの
価値の極大化策を検討

基本骨子2．研究開発への積極的な投資

03年3月期（実績）	04年3月期（見込み）	修正目標値
70億円（10.4%）	84億円（13.1%）	売上高の15%

国際的な競争力を有する創薬型企业として売上高の15%を目処としたR & Dへの継続的投資拡大を図る

研究開発の重点領域：
1．感染症
2．免疫・アレルギー
3．代謝性疾患

への集中的投資を実施

1．外部研究機関との創薬ネットワークの構築

(1) 3極創薬拠点作り（サテライト研究所：日・米・欧）

- キョーリンスコットランド研究所（K S R L）等、外部研究機関との共同開発の推進
- ・アレルギー領域・代謝性疾患（糖尿病）領域
- 米国におけるサテライト研究所設置の検討

(2) 外部創薬投資の拡大

- ・A c t i v X社（型糖尿病）、D P I社（アレルギー領域）、バイオベンチャー投資及び共同研究など

2．効率的プロジェクトの推進

(1) 開発品ステージアップに伴う経費の効率化

- ・K R P - 2 9 7のブリッジング試験の検討

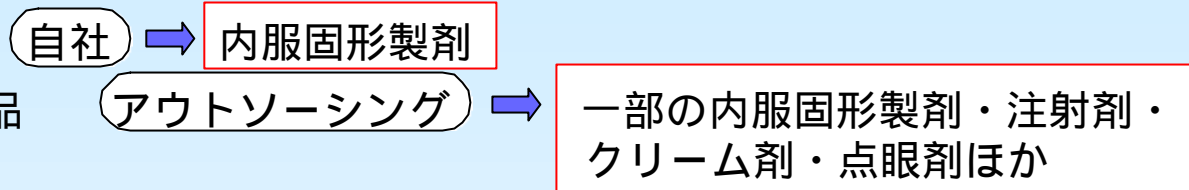
(2) 優先順位を明確にした海外臨床試験の展開

基本骨子3. R & D費率15%へ拡大しつつ経常利益率水準を確保

1. 新生産体制の構築によるコスト構造の改革

(1) 新生産体制の構想

- ・大量かつ技術的に難しい製品
- ・少量または技術的に確立した製品



(2) 新製剤工場の建設と生産の2拠点化

- ・06年4月：能代工場の新製剤工場稼働 設備投資約80億円
- ・06年3月：野木工場を閉鎖し、能代工場に生産移転（3拠点から2拠点体制へ）



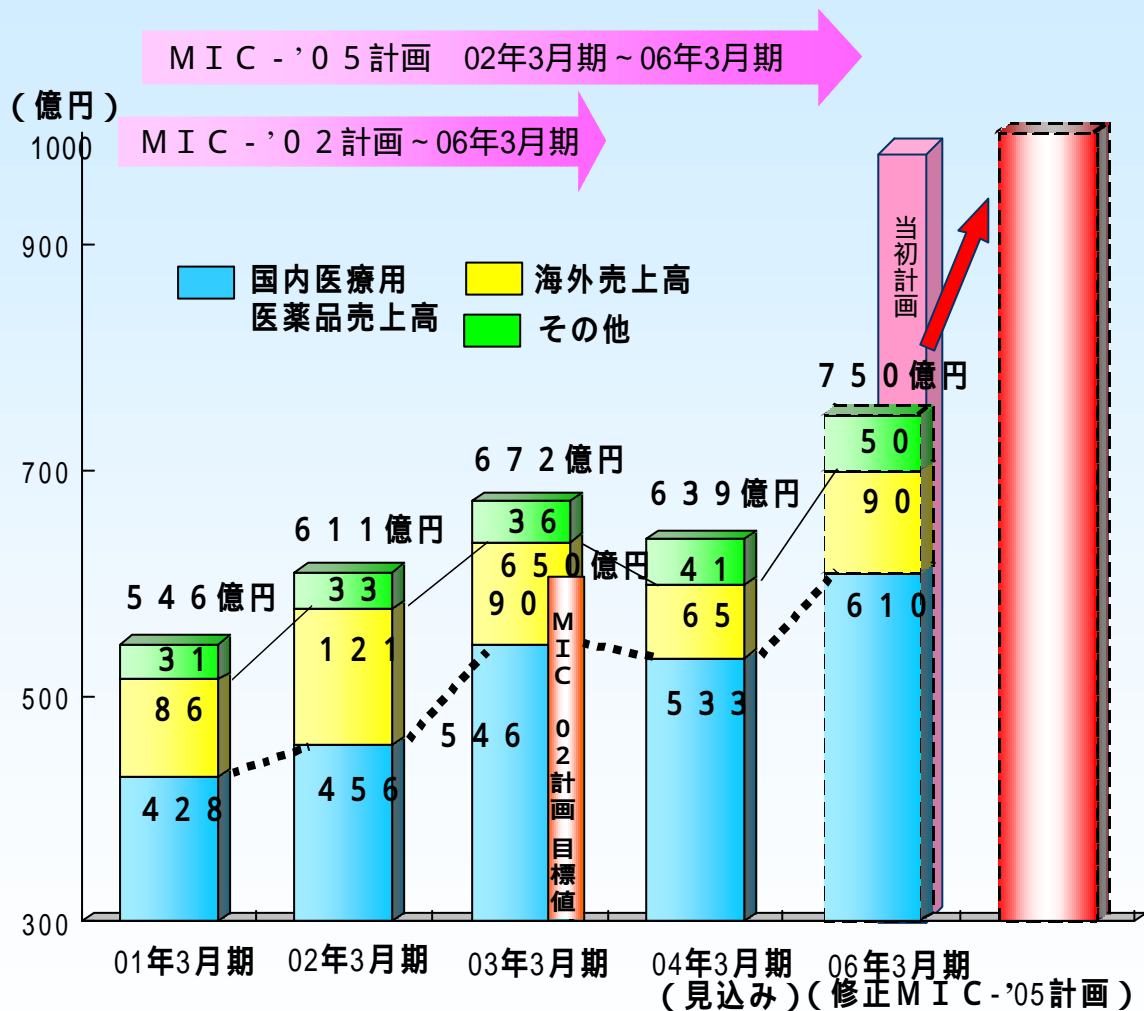
アウトソーシングの推進と生産体制の2拠点集約化によるコスト構造の改革を図る（原価率30%台）

2. 人員 / 人件費計画の見直しによる販管費率(R & D費除く)の低減(35%台)

- (1) 人員の適正化：現状1700名 2005年度1650名
- (2) 直間比率の一層の改革
- (3) 年齢構成の是正
- (4) 企業年金など退職給付制度の改革による退職給付費用の減少

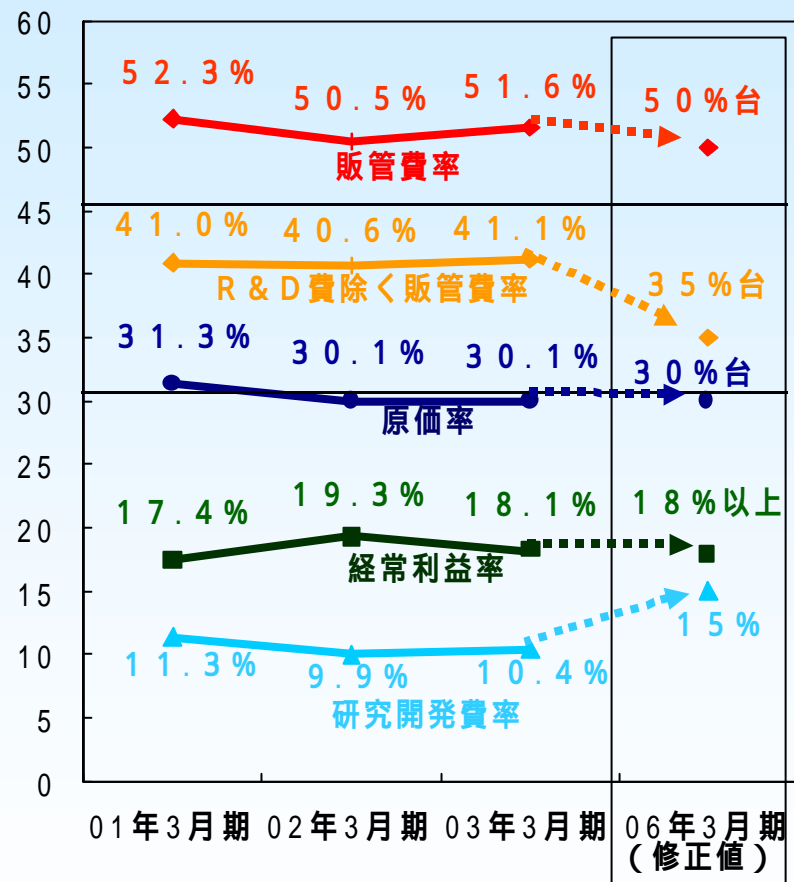
M I C 計画 業績及び経営指標の推移と目標修正値

売上高



目標数値

(単位：%)



開発品一覧

(2003年9月30日現在)

開発段階	製品名・開発コード	薬効	起源	特徴	備考
申請中 (02年2月)	N - 3389 (錠)	制吐剤	日清製粉	5-HT ₃ と5-HT ₄ 拮抗作用を併せ持つ。	日清キョーリン製薬が単独で申請 ・日清製粉グループ 日清ファルマと共同開発
<u>上市</u> (03年9月)	マクサルト錠 マクサルトRPD錠	片頭痛治療剤	メルク社	強力な5-HT _{1B/1D} 作動薬。片頭痛発現後の投与において速やかに効果を発現する。再発例に対しても改善効果を示す	日本国内における開発は万有製薬が実施し、杏林製薬が承認申請 独占的販売権を杏林製薬が取得 <u>エーザイに販売委託</u> <u>エーザイより9月24日新発売</u>
Ph	ペキロン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	自社	日本初のネイルラッカー製剤。	マルホと共同開発
<u>Ph</u>	KRP - 197 (錠)	尿失禁治療剤	自社	抗コリン作用が強く、口渇等の副作用軽減が期待される。	海外：英国においてPh 終了 (CRO活用) 国内：小野薬品工業と共同開発・販売
Ph	モンテルカスト	気管支喘息治療剤	メルク社	小児(1歳~5歳)用の新規製剤	剤形追加 用法・用量の変更 ・万有製薬と共同開発
Ph	KRP - 297 (錠)	糖尿病治療剤	自社	インスリン抵抗性改善作用と糖尿病に伴う脂質代謝異常にも効果。	海外：米国メルク社に導出(99年9月) 国内：万有製薬と共同開発
Ph	ガチフロ注	合成抗菌剤	自社		剤形追加
Ph	N - 5984 (錠)	糖尿病治療剤 抗肥満剤	日清製粉	選択性の高い β 3受容体作動薬。高血糖及び耐糖能、高インスリン血症を改善すると共に血漿中TG、FFAを低下させる。	・日清製粉グループ 日清ファルマと共同開発
Ph	KRP - 101	高脂血症治療剤	自社	PPARの選択的agonist。LDLコレステロールおよび中性脂肪を低下させ、HDLコレステロールを高めることにより、トータルの脂質プロファイルの改善が期待できる。	海外：英国においてPh 開始(4月)

開発品一覧

(2 0 0 3 年 9 月 3 0 日 現 在)

導出品の状況

製品名 / 開発コード	導出先	開発段階	薬効	起源	備考
ガチフロキサシン 注射剤	グリュネンタール社	P h /	合成抗菌剤	自社	
ガチフロキサシン 点眼液	アラガン社	<u>上 市</u> <u>(2 0 0 3 年 4 月)</u>	合成抗菌剤	自社	日本、中国、韓国、台湾を除く全世界における 開発、製剤及び販売権を供与
	千寿製薬	申請中 (2 0 0 2 年 末)			日本における開発、製剤及び販売権を供与
K R P - 2 9 7	メルク社	P h (米 国)	糖尿病治療剤	自社	日本、中国、韓国、台湾を除く全世界における 研究開発及び販売権を供与

新規事業の拡充 - 新しい事業開発の現状 -

1. ビストナー事業ファンドの状況

- ・ 設 立 2000年9月
- ・ 出資額 50億円 (既出資額 30億円 **既投資額 17億円**)
- ・ 対象領域 「医薬品関連」「医療関連」「介護関連」「健康関連」

投資案件

領 域
< 医薬品領域 > ゲノム創薬など
< 医療領域 > 代替医療 再生医療 ITなど
< 介護領域 > 施設経営 在宅介護 関連製品など
< 健康領域 > 食品 化粧品など



投資件数	投資先の事業内容
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 殺菌消毒剤 (食肉用等) ・ ウイルス性肝炎、関節リウマチ等の治療薬開発 ・ 機能性ペプチドを用いた創薬、健康食品・スキンケア製品の開発 / 製造 / 販売
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ C型肝炎の温熱治療装置・治療法の研究開発 ・ 非侵襲的医療関連計測機器の開発 ・ レーザーによる近視治療の事業化 ・ 医学文献 / 医療情報等のネットワーク配信サービス ・ PET画像診断センター設立企画・運営支援
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有機汚泥処理システム (介護用トイレなど) の事業化 ・ 介護施設の運営・コンサルタント ・ 介護ヘルパー用等ASPソフト開発 / 販売
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化粧品 / 健康食品通信販売 ・ 汚水処理用各種担体の事業化 ・ 証券会社 (中国の漢方、健食等の情報強化) ・ 農業用資材 / 農産物流通事業 ・ 食品素材開発 ・ スキンケア用品開発 / 販売 (2社)

合計 19 件投資

2003年9月中間期 決算概要

財務諸表の概況

損益計算書の概要：連結

< 連結 >

(単位：百万円)

	0 2 年 9 月中間期		0 3 年 9 月中間期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	31,878	100.0%	30,831	100.0%	3.3%	1,046
売上原価	9,848	30.9%	10,427	33.8%	5.9%	579
売上総利益	22,029	69.1%	20,403	66.2%	7.4%	1,626
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	17,222 (3,130)	54.0% (9.8%)	17,015 (3,577)	55.2% (11.6%)	1.2% 14.3%	207 446
営業利益	4,806	15.1%	3,387	11.0%	29.5%	1,419
営業外収益	324	1.0%	286	0.9%	11.7%	38
営業外費用	226	0.7%	338	1.1%	49.2%	111
経常利益	4,904	15.4%	3,336	10.8%	32.0%	1,568
特別利益	23	0.1%	4,482	14.5%		4,459
特別損失	1,965	6.2%	17	0.0%	99.1%	1,947
税引き前当期利益	2,963	9.3%	7,801	25.3%	163.2%	4,837
法人税・住民税 および事業税	2,722	8.5%	1,537	5.0%	43.5%	1,185
法人税等調整額	1,315	4.1%	1,620	5.2%		2,935
中間純利益	1,555	4.9%	4,643	15.1%	198.4%	3,087

< 当期のポイント >

< 適応範囲及び持分法の適用について >

連結子会社 5 社：(株)杏文堂

(株)ピストナー

kyorin USA, Inc

kyorin Europe GmbH

ピストナー壱号投資事業有限責任組合

持分法適応会社 2 社：日清キョーリン製薬(株)

日本理化学薬品(株)

	0 2 / 9	0 3 / 9 (億円)
売上高	318	308
(医薬品事業)	311	301
< 医療用医薬品：国内 >	262	246
= 製品別売上 =		
ムコダイン	74	78
バクシダール	6	4
ケタス	36	35
アブレース	18	15
ロカルトロール	16	14
ペンタサ	26	30
キプレス	25	43
ガチフロ	19	6
< 医療用医薬品：海外 >	31	36
ノルフロキサシン	8	6
ガチフロキサシン	19	30
< 医薬品事業のその他 >	17	17
うち ミルトン	16	14
(その他事業)	7	7
* 販売促進・広告の企画制作		

損益計算書の概要：単体 -

< 単体 >

(単位：百万円)

	02年9月中間期		03年9月中間期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	31,164	100.0%	30,137	100.0%	3.3%	1,026
国内医療用	26,212	84.1%	24,670	81.8%	5.9%	1,541
海外医療用	3,191	10.2%	3,672	12.2%	15.1%	480
その他	1,759	5.7%	1,794	6.0%	2.0%	35

< 当期のポイント >

売上高 30,137百万円 (10億円)

国内医療用 24,670百万円 (15億円)

=業績プラス要因=

	前期実績	当期実績
・ムコダイン	74	78 (+4)
・キプレス	25	43 (+18)
・ペンタサ	26	30 (+4)

=業績マイナス要因=

・ガチフロ	19	6 (-13)
* 杏林売上のみ		
・その他	42	21 (-21)

[その他のマイナス要因]

・大日本製薬のガチフロ錠に関する一時金及び出荷の減少

海外医療用 3,672百万円 (+4億円)

=業績プラス要因=

・ガチフロ	19	30 (+11)
BMS社の過剰在庫問題解消		
アラガン社の点眼液米国上市(4月)		

その他 1,794百万円 (±0億円)

・ミルトン 16 14 (-2)

損益計算書の概要：単体 -

< 単体 >

(単位：百万円)

	02年9月中間期		03年9月中間期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上原価	9,315	29.9%	9,899	32.8%	6.3%	584
売上総利益	21,848	70.1%	20,238	67.2%	7.4%	1,610
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	17,109 (3,130)	54.9% 10.0%	16,854 (3,577)	55.9% 11.9%	1.5% 14.3%	254 446
営業利益	4,739	15.2%	3,383	11.3%	28.6%	1,356
営業外収益	200	0.6%	348	1.2%	73.5%	147
営業外費用	313	1.0%	440	1.5%	40.4%	126
経常利益	4,626	14.8%	3,291	11.0%	28.9%	1,335
特別利益	31	0.1%	4,483	14.9%		4,451
特別損失	1,965	6.3%	17	0.1%	99.1%	1,947
税引き前当期利益	2,693	8.6%	7,757	25.8%	188.0%	5,064
法人税・住民税 および事業税	2,671	8.6%	1,529	5.1%	42.8%	1,142
法人税等調整額	1,297	4.2%	1,613	5.4%		2,911
中間純利益	1,319	4.2%	4,614	15.3%	249.7%	3,295

< 当期のポイント >

売上原価 9,899百万円 (+ 5億円)

原価率

前年比 + 2.9ポイント (29.9% 32.8%)

【原価率上昇要因】

* ガチフ口錠の売上減少

販管費 16,854百万円 (2億円)

販管費率

前年比 + 1.0ポイント (54.9% 55.9%)

【販管費増加要因】

* 販管費約2億円減：研究開発費4億円増加、
研究開発費を除く販管費は7億円減少

営業利益 3,383百万円 (13億円)

営業利益率

前年比 3.9ポイント (15.2% 11.3%)

経常利益 3,291百万円 (13億円)

経常利益率

前年比 3.8ポイント (14.8% 11.0%)

【営業外収益】 147百万円増

【営業外費用】 126百万円増

当期利益 4,614百万円 (+ 32億円)

【特別利益】 4,451百万円増

* 厚生年金基金代行返上に伴う特別利益の計上
(44億円)

【特別損失】 1,947百万円減

* 退職給付債務の償却(約15億円)が前年で終了

貸借対照表の概要

(単位：百万円)

< 連結 >	02年9月中間期		03年3月期		03年9月中間期		
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
流動資産	91,376	67.7%	101,095	72.2%	99,004	71.2%	2,090
現金および預金	53,104		57,607		57,368		
受取手形及び売掛金	19,515		23,522		19,580		
有価証券	2,017		3,523		4,725		
棚卸資産	11,165		10,809		11,090		
その他流動資産	5,572		5,631		6,240		
固定資産	43,641	32.3%	38,866	27.8%	39,975	28.8%	1,109
有形固定資産	15,427		15,058		17,382		
無形固定資産	5,971		5,293		4,926		
投資その他	22,242		18,514		17,667		
流動負債	15,146	11.2%	15,780	11.3%	14,389	10.3%	1,390
支払手形及び買掛金	4,482		5,003		5,231		
その他流動負債	10,664		10,776		9,157		
固定負債	16,643	12.3%	18,863	13.5%	15,086	10.9%	3,776
負債合計	31,789	23.5%	34,643	24.8%	29,476	21.2%	5,167
資本金	4,317	3.2%	4,317	3.1%	4,317	3.1%	
資本剰余金	949	0.7%	949	0.7%	949	0.7%	
利益剰余金	98,724	73.1%	100,643	71.9%	104,375	75.1%	
その他有価証券評価差額金	244	0.1%	69	0.0%	536	0.4%	
為替換算調整勘定	3	0.0%	7	0.0%	15	0.0%	
自己株式	522	0.4%	668	0.5%	688	0.5%	
資本合計	103,228	76.5%	105,318	75.2%	109,504	78.8%	4,186
総資産合計	135,017	100.0%	139,961	100.0%	138,980	100.0%	980

< 当期のポイント >

流動資産：2,090百万円減

- ・受取手形、売掛金の減少（3,942百万円減）
- ・有価証券の増加（1,201百万円増）
- ・その他流動資産の増加（608百万円増）

固定資産：1,109百万円増

- ・有形固定資産の増加（2,323百万円増）
- ・無形固定資産の減少（367百万円減）
- ・*ミルトンの減価償却など
- ・投資その他の減少（846百万円減）

流動負債：1,390百万円減

- ・その他流動負債の減少（1,620百万円減）
- ・*未払法人税などの減少（1,962百万円減）

固定負債：3,776百万円減

- ・退職給付引当金（3,760百万円減）

貸借対照表の概要

(単位：百万円)

< 単体 >	02年9月中間期		03年3月期		03年9月中間期		
	実績	構成比	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
流動資産	89,738	67.1%	99,023	71.5%	97,202	70.7%	1,820
現金および預金	52,158		55,986		56,151		
受取手形	439		523		414		
売掛金	18,555		22,694		18,792		
有価証券	1,906		3,412		4,613		
棚卸資産	11,162		10,782		11,087		
その他流動資産	5,515		5,624		6,143		
固定資産	43,957	32.9%	39,460	28.5%	40,188	29.3%	727
有形固定資産	15,376		15,012		17,339		
無形固定資産	5,970		5,289		4,922		
投資その他	22,611		19,158		17,926		
流動負債	14,787	11.1%	15,520	11.2%	14,020	10.2%	1,500
支払手形	965		1,077		1,112		
買掛金	2,825		3,354		3,676		
その他流動負債	10,996		11,088		9,230		
固定負債	16,554	12.4%	18,772	13.6%	15,034	10.9%	3,738
負債合計	31,341	23.5%	34,293	24.8%	29,054	21.1%	5,238
資本金	4,317	3.2%	4,317	3.1%	4,317	3.1%	
資本剰余金	949	0.7%	949	0.7%	949	0.7%	
利益剰余金	97,879	73.2%	99,547	71.9%	103,254	75.2%	
その他有価証券評価差額金	269	0.2%	42	0.0%	501	0.4%	
自己株式	522	0.4%	664	0.5%	685	0.5%	
資本合計	102,355	76.5%	104,191	75.2%	108,337	78.9%	4,145
総資産合計	133,696	100.0%	138,484	100.0%	137,391	100.0%	1,093

< 当期のポイント >

流動資産：1,820百万円減

- ・売掛金の減少 (3,901百万円減)
- ・有価証券の増加 (1,201百万円増)

固定資産：727百万円増

- ・有形固定資産の増加 (2,326百万円増)
- ・無形固定資産の減少 (367百万円減)
- *ミルトンの減価償却など
- ・投資その他の減少 (1,231百万円減)

流動負債：1,500百万円減

- *未払法人税などの減少 (1,930百万円減)

固定負債：3,738百万円増

- ・退職給付引当金の減少 (3,733百万円減)

- ・利益剰余金の増加 (3,706百万円増)

製品売上の状況

(単位:億円)

< 通 期 >

< 半 期 >		00年9月期	01年9月期	02年9月期	03年9月期		03年3月期 (実績)	04年3月期 (見込み)
					実績	前 同 比		
国 内 売 上	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)		17	25	43	71.2%	64	94
	ガチフロ(自社販売) (合成抗菌剤)			19	6	68.5%	47	30
	ムコダイン (去痰剤)	70	76	74	78	5.5%	171	177
	バクシダール (合成抗菌剤)	9	8	6	4	22.3%	12	9
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	37	37	36	35	2.9%	70	69
	アブレース (抗潰瘍剤)	23	21	18	15	13.9%	34	28
	ロカルトロール (骨粗鬆症治療剤)	19	19	16	14	13.1%	30	27
	ペントサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	19	22	26	30	12.1%	53	59
OTC	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	14	14	16	14	10.5%	30	29
海 外 売 上	海外売上合計	35	59	31	36	15.1%	90	65
	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	20	48	19	30	53.7%	51	55
	ノルフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	11	10	8	6	31.6%	15	8
	海外売上比率	14.0%	20.9%	10.2%	12.2%		13.4%	10.2%
自社品比率		81.4%	84.0%	83.1%	82.0%		86.6%	84.0%

研究開発・設備投資・減価償却の状況

(単位：百万円)

< 通 期 >

< 半 期 >	99年9月期	00年9月期	01年9月期	02年9月期	03年9月期		04年3月期 (見込み)
					実 績	前 同 比	
研究開発費	2,616	2,795	2,954	3,130	3,577	14.3%	8,400
設備投資(計上ベース)	343	1,099	950	2,448	3,564	45.6%	7,200
減価償却費	1,435	1,312	1,518	1,597	1,655	3.6%	3,600

< 設備投資の状況 (実績 / 計画) >

	03年3月期	04年3月期	
	実 績	中間実績	通期計画
(実績)			
プロセス研究棟設備化等研究用設備	10億円		
新製品製造設備・製造機械設備(各工場)	16億円		
支店社屋・社宅新築	4億円		
(実績 / 計画)			
新製品製造設備・製造機械設備(各工場)		19億円	37億円
管理・販売設備		5億円	16億円
支店社屋・社宅新築		6億円	9億円

主な業績項目の推移：連結

< 半 期 >					< 通 期 > (単位：百万円)	
	00年9月期	01年9月期	02年9月期	03年9月期	03年3月期	04年3月期 (見込み)
売上高 (輸出高)	26,210 (3,589)	29,293 (5,984)	31,878 (3,191)	30,831 (3,672)	68,618 (9,024)	65,300 (6,500)
売上原価 (売上原価率) %	8,681 (33.1%)	9,613 (32.8%)	9,848 (30.9%)	10,427 (33.8%)	21,205 (30.9%)	
販売費及び一般管理費 (販管費率) %	14,010 (53.5%)	15,847 (54.1%)	17,222 (54.0%)	17,015 (55.2%)	35,045 (51.1%)	
うち研究開発費 (研究開発費率) %	2,795 (10.7%)	2,954 (10.1%)	3,130 (9.8%)	3,577 (11.6%)	7,009 (10.2%)	8,400 (12.9%)
営業利益 (営業利益率) %	3,518 (13.4%)	3,831 (13.1%)	4,806 (15.1%)	3,387 (11.0%)	12,367 (18.0%)	8,900 (13.6%)
経常利益 (経常利益率) %	3,778 (14.4%)	3,946 (13.5%)	4,904 (15.4%)	3,336 (10.8%)	12,805 (18.6%)	9,100 (13.9%)
当期利益 (当期利益率) %	985 (3.7%)	871 (3.0%)	1,555 (4.9%)	4,643 (15.1%)	4,120 (6.0%)	8,000 (12.3%)
一株当たり当期利益(円)	17.11円	15.14円	18.05円	53.93円	47.21円	92.93円
資本金	3,623	3,623	4,317	4,317	4,317	4,317
総資産	119,249	127,483	135,017	138,980	139,961	
株主資本	98,522	100,107	103,228	109,504	105,318	
一株当たり株主資本(円)	1,711円	1,739円	1,197円	1,272円	1,222円	
株主資本利益率 %	1.0%	0.9%	1.5%	4.2%	4.0%	
株主資本比率 %	82.6%	78.5%	76.5%	78.8%	75.2%	
人員(人)	1,724人	1,746人	1,757人	1,775	1,719人	
設備投資	1,099	950	2,448	3,565	3,301	7,200
減価償却費	1,312	1,520	1,603	1,660	3,637	3,600

主な業績項目の推移：単体

< 半 期 >	< 通 期 > (単位:百万円)					< 通 期 > (単位:百万円)	
	99年9月期	00年9月期	01年9月期	02年9月期	03年9月期	03年3月期	04年3月期 (見込み)
売上高 (輸出高)	23,238 (2,679)	25,620 (3,589)	28,695 (5,984)	31,164 (3,191)	30,137 (3,672)	67,293 (9,024)	63,900 (6,500)
売上原価 (売上原価率)%	7,132 (30.7%)	8,234 (32.1%)	9,169 (32.0%)	9,315 (29.9%)	9,899 (32.8%)	20,230 (30.1%)	
販売費及び一般管理費 (販管費率)%	13,105 (56.4%)	13,897 (54.3%)	15,743 (54.9%)	17,109 (54.9%)	16,854 (55.9%)	34,698 (51.6%)	
うち研究開発費 (研究開発費率)%	2,616 (11.3%)	2,795 (10.9%)	2,954 (10.3%)	3,130 (10.0%)	3,577 (11.9%)	7,009 (10.4%)	8,400 (13.2%)
営業利益 (営業利益率)%	2,999 (12.9%)	3,488 (13.6%)	3,788 (13.2%)	4,739 (15.2%)	3,383 (11.3%)	12,364 (18.3%)	9,000 (14.1%)
経常利益 (経常利益率)%	3,118 (13.4%)	3,710 (14.5%)	3,874 (13.5%)	4,626 (14.8%)	3,291 (11.0%)	12,241 (18.1%)	8,900 (13.9%)
当期利益 (当期利益率)%	1,616 (7.0%)	949 (3.7%)	867 (3.0%)	1,319 (4.2%)	4,614 (15.3%)	3,633 (5.3%)	7,800 (12.2%)
一株当たり当期利益(円)	28.07円	16.49円	15.07円	15.31円	53.60円	41.63円	90.60円
資本金	3,623	3,623	3,623	4,317	4,317	4,317	4,317
総資産	113,317	118,674	126,829	133,696	137,391	138,484	
株主資本	95,593	98,359	99,791	102,355	108,337	104,191	
一株当たり株主資本(円)	1,660円	1,708円	1,733円	1,187円	1,258円	1,209円	
株主資本利益率%	1.7%	1.0%	0.9%	1.3%	4.3%	3.5%	
株主資本比率%	84.4%	82.9%	78.7%	76.5%	78.9%	75.2%	
人員(人)	1,798人	1,679人	1,692人	1,695人	1,717	1,658人	
設備投資	343	1,099	950	2,448	3,564	3,301	7,200
減価償却費	1,435	1,312	1,518	1,597	1,655	3,626	3,600